

**RDA（Research Data Alliance）第7回総会および関連会合参加報告および所感**

村山泰啓（情報通信研究機構・ICSU-WDS）

2016年3月30日

報告事項：

1. 2016年2月29日：データ・シェアリング・シンポジウム
2. 2016年3月1-3日：RDA第7回総会、Co-located events

**データ・シェアリング・シンポジウム**

日程、場所：2016年2月29日（月）、一橋講堂（東京都千代田区）

主催：科学技術振興機構

- 翌日からの国際イベントであるRDA第7回総会（RDA 7th Plenary meeting; 以下、RDA-P7）に対する国内情報共有の機会。
- 午前：全体展望。ICSU（国際科学会議）、内閣府 CSTI、NSF、European Commission、日本学術会議、OECD、と主な関係組織からの基調講演。
- 午後：各分野専門家の報告。情報学、オープンサイエンス、物質科学、バイオサイエンス、脳科学、人工知能。関連活動、国内活動
- 「オープンサイエンスはこうあるべき」から「そもそもオープンサイエンスとは？」まで幅広い議論ができた。国内認識を深めるためにはこうした議論も重要。
- 村山私見：
  - RDAが国際イベントとして日本のプレゼンスを示す重要な契機となった。しかし一過性のイベントとして国内は何の変化もないのでは意味が薄い。
  - 研究、データ・マネジメント、情報管理、図書館、などの当事者が新しいデータ基盤、データ共有取組を他人事と捉えず、取り組むべきか否か、取り組むなら自分たちの・我が国の強みを出せる部分を見出す必要がある。



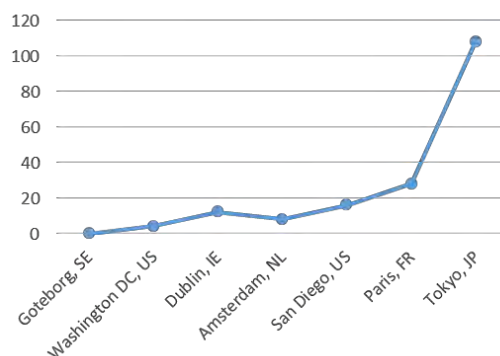
## RDA 7th Plenary Meeting (RDA-P7)

日程、場所：2016年3月1日（火）、2日（水）、3日（木）、  
一橋講堂（東京都千代田区）

主催：科学技術振興機構、RDA

- 欧州、米国以外での RDA 総会の初めての開催。
- 総参加者数：373 名（過去：欧州内で 500-600 名程度、米国内で 300 名台後半）。
- 参加地域：日本（113 名）、欧州（128 名）、米国（71 名）、豪州（11 名）等。57%が研究機関。
- WG 等：WG 会合 8、IG 会合 25、BoF 会合 10、グループ合同会合 9。

Growth in Japanese participation across RDA Plenary meetings



会場（一橋講堂）  
前のサインボード



プレナリー会場。



Mark Parsons  
(RDA Secretary  
General)



Working Group の様子。



日本側主催者の  
あいさつ  
(JST 大竹シニア  
フェロー)



RDA-P7 の協賛機関